

大阪・湊遺跡

礎石状遺構、その石を抜き取った跡の土坑（SK-102）から近世の遺物が出土している。下面では谷状流路、井戸、溝五条、埋甕、土坑五基が確認された。

- 1 所在地 大阪府泉佐野市中庄
- 2 調査期間 一九九八年（平10）九月
- 3 発掘機関 泉佐野市教育委員会
- 4 調査担当者 中岡 勝
- 5 遺跡の種類 集落跡
- 6 遺跡の年代 弥生時代～近世
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



(岸和田)

湊遺跡は、和泉山脈から大阪湾へ流れる佐野川下流域の河岸段丘及びその南側に広がる大きな谷地形付近に位置する遺跡である。弥生時代から近世にかけての複合遺跡で、弥生時代・奈良時代・平安時代の建物群や、中世の集落跡などが確認されている。今回の調査区は、遺跡の南東端部に位置する。

調査の結果、遺構面二面が確認された。上面では溝、

埋甕は土師質（湊焼）で、内部には平瓦・板状木製品・木片・ガラス製品が埋納されていた。さらに埋甕の下に木桶が確認され、木簡は桶底から木製品・瓦・種子とともに出土した。木桶については簡易な井戸などに伴う可能性が考えられる。

8 木簡の釈文・内容

(1)

- ・「泉州中ノ庄
武井李庵様入 吉野屋
大光□□ 清兵衛」
- ・「□□」

159×37×8 011

杉材を短冊状に上下・左右とも切断加工しており、ほぼ完形に近い状態と思われる。長辺側の加工はやや雑である。調査区付近には大光寺が所在し、同寺に関連するものと考えられる。なお、「様」とした文字は、「搬」の可能性もある。

9 関係文献

- 泉佐野市教育委員会『泉佐野市埋蔵文化財発掘調査概要 平成一〇年度』（一九九九年）

(東原直明)

兵庫・明石城下町屋跡本町第一一次地点

所在地 兵庫県明石市本町二丁目

調査期間 二〇〇五年(平17)六月~七月

発掘機関 明石市立文化博物館

調査担当者 稲原昭嘉

遺跡の種類 城下町跡(町屋)

遺跡の年代 江戸時代

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

明石城下町屋跡は、武家屋敷街区の南の標高約一・一mの地点に位置する。今回の調査地は、大久保忠職が城主の時期(寛永一六年

(一六三九)~慶安二年(一

六四九)に成立した『播州

明石城図』によると、浜ま

で広がる町屋の中央や西

寄りにあたる。また、『明

石町旧全図』(文久三年(一

八六三)では、調査地点は

東西に細長い街区の中央北

寄りに位置し、北側には



(明石・須磨)

